



仲良く一手一つに 成人の歩みを

11月大教会教長会議

立教188年11月22日

大教会長 片山幹太

本
島
通
信

発行所 〒763-0223 香川県丸亀市本島町泊268
天理教本島大教会

電話 0877-27-3321 (代)

本島通信編集室 R.251124-1128-15

奈良県天理市指柳町270-1

本島詰所 〒632-0093

電話 0743-63-1571 (呼)

<https://www.honjima.com>

Email: webmaster@honjima.com

大教会 朝夕おつとめ時間

[11月1日～12月31日]

朝づとめ 午前6時45分

夕づとめ 午後6時00分

教祖百四十年祭

立教百八十九年一月二十六日
午前十時三十分 執行

私は朝夕おつとめのとき、手作りのクツーションをお尻に敷かせてもらっています。それはなぜかといいますと、前回の斯道会別席団参のとき、少しばしすぎてしまい、膝を痛めてしまつたからです。その後、良くなつたり、油断をすると悪くなつたり、行つたり来たりしながら今日にいたります。なかなか素直に治らないことに、ちょっと心が勇めない時期もありました。

論達第四号において真柱様は冒頭「全教の心を一つにしたい」と仰せられ、締めくくりでは「世界たすけの歩みを一手一つに力強く」とあります。ですから私は「一手一つ」ということを三年千日の主要な課題として通させていただいておりました。

そんな時、御本部で私が立ち座りに苦労している姿を見られていたあら、幹太、ちょっと時間あるか?

私は朝夕おつとめのとき、手作りのクツーションをお尻に敷かせてもらっています。それはなぜかといいますと、前回の斯道会別席団参のとき、少しばしすぎてしまい、膝を痛めてしまつたからです。その後、良くなつたり、油断をすると悪くなつたり、行つたり来たりしながら今日にいたります。なかなか素直に治らないことに、ちょっと心が勇めない時期もありました。

そのときにいたいた言葉が大変心にしました。「膝はな、曲げて伸ばしてと、曲げるときは曲げる筋肉チームが頑張っているんだ。そのとき伸ばす筋肉チームは遠慮している。逆に伸ばすときは、伸ばすチームが働き、曲げるチームは休む。伸ばすと曲げるの連続動作である膝は、実は頑張っているのと見守っているのが上手く対になつていてる動作と言えるのだ。」

続いて先生は、「そのためには何が大事かわかるか?」と尋ねられました。先生の答えは「仲良しじゃないとあかん」とのことです。「こっちのチームとあっちのチームが仲良じやないと、ここは息が合わん。一手一つになれないんだ。」とのお諭

おさづけをさせてくれへんか?」と言つてくださつたのです。そして南礼拝場でおさづけを取り次いで下さいました。

そのときにいたいた言葉が大変心にしました。「膝はな、曲げて伸ばしてと、曲げるときは曲げる筋肉チームが頑張っているんだ。そのとき伸ばす筋肉チームは遠慮している。逆に伸ばすときは、伸ばすチームが働き、曲げるチームは休む。伸ばすと曲げるの連続動作である膝は、実は頑張っているのと見守っているのが上手く対になつていてる動作と言えるのだ。」

真柱様の思いが論達第四号に込められていてますので、年祭に向かって諭達を頼りに成人の歩みを進めさせて頂きたいと思います。

(文責・本島通信編集室)



おぢばへ眞実の心を 伏せ込もう

大教会准役員 横閑茂治

只今は11月の月次祭を大教会長様を芯に、皆様方と共に陽気に勇んでつとめ終えさせて頂き誠にありがとうございました。只今より11月の祭典講話をつとめさせて頂きます。

するような言葉がある一方、まつたく聞いたことがない若者言葉もあります。

その中で私が気になった言葉は

が思い出されます。そして冬の寒さが特に身に迫るお話は明治19年、御年89歳の教祖が櫟本分署でお通りくださった最後の御苦勞です。抜粋して読ませていただきます。

※稿本天理教教祖伝・第九章「御苦労」282頁から291頁を読む

ト語が30個発表され、「物価高」や「トランプ関税」など今年の出来事を象徴

日本は昔から四季があり、それぞれの季節の風物や食べ物を楽しむ文化がありますが、昨今は気候変動の影響で春と秋が短くなり、夏の暑さと冬の寒さが際立っていることを言い当てるに思っています。

私は鼓笛隊の指導員をさせていただいておりました。この夏は例年に増して暑く、子どもたちの体調管理や熱中症予防に終始心を配った合宿でした。幸い大きな事故や病気もなく、無事に通らせていただくことができたことは、親神様・教祖のご守護に感謝を申し上げるのはもちろんであ

りますが、鼓笛隊活動にお心を寄せて下さる皆さまのおかげでもあると受け止めています。

立冬が過ぎ、これから冬本番に向かって寒さが厳しくなります。教祖伝逸話篇には冬の寒さについて、増井りん先生の「雪の日」や、泉田藤吉先生の「やんわり伸ばしたら」の逸話

がゆえにつとめを勤めることができます。先人先生方の苦惱と葛藤が記されており、明治20年陰曆正月26日、「をやの命を二十五年先の命を縮めて、今からたすけするのやで。」と、命を縮めて世界たすけに扉ひらいて踏み出されるまでの教祖ひながたが記されています。

私たちが今こうして何不自由なく毎日を過ごさせていただき、官憲の妨害や世間の誹謗中傷も受けることなくお道の信仰を続けさせていただければ、まさに教祖伝に記されている通り教祖の御苦勞、先人先生方の苦惱、葛藤、また今日まで信仰をつないで下さった道の先輩方のおかげにほかならないと思います。

教祖が警察へ御苦勞下されたのは、子供である私たち人間に一日も早く陽気ぐらしをさせてやりたい、その念からであります。そのためにはつとめの完成が不可欠なのですが、つとめを勤めることによって教祖が官憲に連れて行かれることになるのであります。

稿本天理教教祖伝第十章「扉ひらいて」では、「一日も早くつとめを完成させて世界中の人にたすけ上げたい教祖と、その教祖の身を案じる



年千日は、ひながたを目標に教えを実践し、たすけ一条の歩みを活発に推し進めるときである」とお示し下さい。この約3年間、教祖ひながたを万分为の一つでもたどらせていたところ、それぞれが心定めをされて年祭活動を進めて来られたと思います。その年祭活動も残りわずかな期間

となりました。今月は斯道会別席団参があり、さらに来年の教祖140年祭には大勢の方がご帰参くださると思しますが、その中で一つ心がけたいことは「おぢばがえり」とともに「ぢばへの伏せ込み」であります。

私になりますが、8年前の4月から約1年間、本部修養科で一年講師を勤めさせていただきました。

そのとき出会つたある一期講師とお話をしたときのことです。私は深く考えずふと「おぢばに帰つてくれればご守護いただけますね」というようなことを言いました。するとその先生は、「それは違うよ。おぢばは尽くすところ、運ぶところであり、真実を伏せ込むところだよ。それを勘違いしている人が多い」と指摘されました。

当時、私はその意味がよく分からなかつたのですが、今考えると深いお話をだつたと思います。

おぢばは、親神様がこの世元初まり人間を創造してくださつた地點であり、親神天理王命様の神名が授けられお鎮まりくだされているところであり、よろづたすけのつとめ場所であります。おぢばがえりすれば、親神様・教祖はきっと「よう帰つて

きたな」と喜んで下さることでしょう。それだけでも大きなお土産をいただけることでしょう。

しかしその先生が仰りたかつたことは、ただおぢばがえりするだけでなく、そこに何か一つ真心を伏せ込ませていただく。それが心をたすけていただけの大切なことなど教えてくださいたのだと思います。

行為はなんでもいいと思います。トイレ掃除でも、廻廊拭きでも、草引きでも。御本部では私たちが伏せ込みやすいようにと、廻廊には廻廊拭き用の布巾を、トイレには種類ごとの雑巾を用意してくださつています。またそれぞれの土地所めずらしいものを御供させていただくこともいいかもしません。

やしきハカみのでんぢやで
まいたるたねハみなはへる
こゝはこのよのでんぢなら
わしもしつかりたねをまこ

(みかぐらうた・七下り目)

とお教えくださつています。おぢばに伏せ込ませていただく、また運ばせていただき。そのことによつて伏せ込んだ種がやがて土地処に帰つて、旬と共に芽吹いて大きなご守護をいただける元になるのだと思いま

う。それだけでも大きなお土産をい

ます。

また逸話篇において教祖は、「習いにやるのでもなければ、教えに来てもらうのでもないで。この屋敷から教え出すものばかりや。世界から教えてもらうものは、何もない。この屋敷から教え出すで、理があるのや。」(稿本天理教教祖伝逸話篇五三「この屋敷から」より)

とも仰せられています。

おぢばでは基礎講座を始め、修養科、教人資格講習や教會長資格検定講習、さらに天理教校など、教えを学ぶ場を各種設置してくださつています。

修養科では「ここは陽気ぐらしの生き方を学ぶところです」と、常々教えられています。また専修科や本科では、教えを専門的に深く学ぶこともできます。

(文責・本島通信編集室)

ですが、一人でも多くの方に声をかけて、おぢばへお連れするとともに、おぢばで伏せ込んでくださる方、おぢばで学んでくださる方をお説いするのも大切なことだと思います。

句を逃さず声ができるようになるためにも、そのことを常に心がけながら残りの年祭活動を精一杯つとめさせていただき、教祖140年祭当日には大勢の方におぢばにお帰りいただいて、教祖にお喜びいただけるよう勤めさせて頂くことをお誓いし、今日の話とさせていただきます。

ご清聴ありがとうございました。

修養科では「ここは陽気ぐらしの生き方を学ぶところです」と、常々教えられています。また専修科や本科では、教えを専門的に深く学ぶこともできます。

おぢばで学んだ者、伏せ込んだ者が、陽気ぐらしの生き方を土地処で実践して、また一人でも多くの方をお誘いしておぢばへお連れし、お道の教え、陽気ぐらしの生き方を知つていただく。おぢばはそのような場所所もあります。

教祖140年祭まであと2ヶ月、年祭活動も佳境を迎えるとしておりま



十一月月次祭

祭典役割

神殿講話	胡三昧 琴弓線 小さりが 太鼓 線鼓 拍子 ちゃんばん 笛木	てをどり	地 方		祭主
					指圖方
					大教會長 老木邦光
横関茂治	片山 池田 岩橋 岩本 寺吉 向所 隆文 片山さわみ 桂田靖造 光明生 雄文	長尾澄子 前会長 岩橋慶三 岩橋道昭 寺吉田晴雄 本教會長	牧野道昭 牧野慶三 岩橋慶三 岩橋道昭 吉田晴雄 本教會長	大教會長 平井真治郎 岡崎八十則	片山 平井真治郎 牧野道昭 吉田晴雄
					座りづとめ 平井真治郎
					片山 平井真治郎 牧野道昭 吉田晴雄
伊東康成	雲庵まち子 平井幸子 長尾啓子 片山直彦 伊東康成 茶屋原良昭 高垣光治 富明治	原口和子 岩橋元実 片山孝代 後藤正治 高垣光治 富明治 伊東康成 春彦 茶屋原良昭 高垣光治	永島宗行 篠原丕王 奥村龍夫 大上道德 高垣富明 伊東康成 春彦 伊東康成 茶屋原良昭 高垣光治	長演充憲 長演充憲 奥村龍夫 大上道德 高垣富明 伊東康成 春彦 伊東康成 茶屋原良昭 高垣光治	てをどり前半 長演充憲
					雅樂奉仕者 文岡育則 池田恒治 鎌田康典 太郎 江草克二 牧野近弘 香川靖幸 肥後信 生(順不同)
					上山康雄 川村吉夫 溝口晋 太郎 江草克二 牧野近弘 香川高範 肥後信 生(順不同)
白垣初生	村田輝夫 大矢万三 古井信 大矢万三 古井信	佐藤道子 上田敬子 川村吉夫 長尾海和 岩橋勝巳 香川勝巳 香川勝巳 滑川善久 木村知彦 善絵 長尾善絵 滑川善久	横山正次 田中丸勝也 肥後信	横山正次 田中丸勝也 肥後信	てをどり後半 佐藤道子 上田敬子 川村吉夫 長尾海和 岩橋勝巳 香川勝巳 香川勝巳 滑川善久 木村知彦 善絵 長尾善絵 滑川善久
					高島栄造
					高島栄造

十一月月次祭祭文

立教百八十八年十一月二十二日

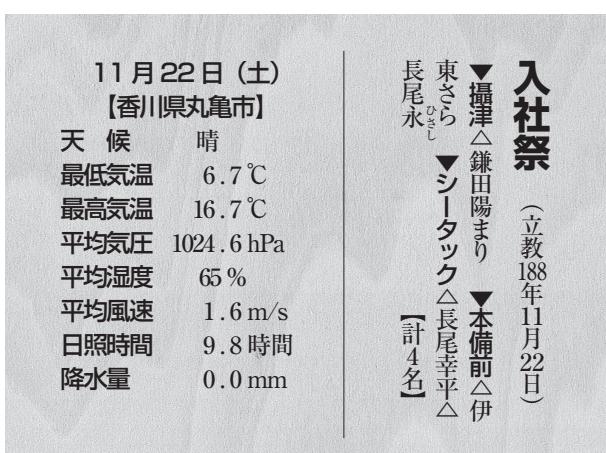
これらの神床にお鎮まり下さいます親神天
理王命の御前に天理教本島大教長片山
幹太慎んで申し上げます

を目標に来る教祖百四十年祭に向う年祭
活動の仕上げに励ませて頂く決意でござ
ります

何卒至らぬ点届かぬ所は幾重にもお仕込
み下さいまして一日も早い世の治まりと
日々御恩報じにつとめさせて頂く一同の
眞実をもお受け取り下さり一手一つに睦
み楽しむ世の状へとお導き下さいますよ
う一同と共に慎んでお願ひ申し上げます

その中にも今日の吉日は当大教会の月毎の御祭り日を迎えたので只今から役目に与るおつとめ奉仕者一同心を澄ませて一手一つに陽気に勇んで座りづとめ・てを、どりを勤め十一月の月次祭を執り行わせて頂きます

御前には親を慕ひ今日を楽しみに国々から帰り集いました教え子達が日頃賜る數々の御守護に御礼申し上げ共におうたを唱和して尚も一筋にお縋りする状をも御覽下さいまして親神様にもお勇み下さいますようお願ひ申し上げます



本田中分教会創立100周年記念祭



本田中分教会(佐々木治道会長、香川県三木町)は大正14年11月3日に設立のお許しを戴いてから、今年が創立100周年を迎える節目に当たり、併せて「神殿増築及修築・内部改修並屋根葺替願」の理のお許しを本年10月25日に戴きました。工事は予定通り竣工しましたので、11月23日午前10時より大教会長夫妻(随行西山道教役員)を迎え、「創立100周年記念祭並びに屋根葺替鎮座奉告祭」を執り行いました。参拝者48名。

佐々木治道教会長は今年4月、

返り、心新たに一手一つに歩み出しましょう」と述べられました。

続いておつとめが陽気に勤められました。

奉告祭に先立ち、10月28日

に親神様・教祖お目標様ならびに相靈様を客間にお遷しす

る遷座祭を行い、工事竣工後、お許しいただいた通り11月22日に神殿神床への鎮座祭を滞りなく執り行いました。

タクシー業務中に脳出血を発症し、緊急入院するふしをお見せいただきました。

挨拶に立った大教会長はこのことに触れられ「会長が倒れたとき、友達がたまたま隣に居たこと。場所は駐車中であつたこと。お客様を乗せていない時だったこと。つまり人・場所・時が立て合った大きな事情を小難に治めていただいたふしだったと悟ります。

本田中分教会創立100周年は、白紙に還り一より始める句とらえ、教会の元一日に立ち

いたたふしだったと悟ります。

本田中分教会創立100周年は、白紙に還り一より始める句とらえ、教会の元一日に立ち

いたたふしだったと悟ります。

布教部報告(11月分) 数字は本年の提出回数です

青年会マンスリー隊

青年会本島分会(伊東賢太郎委員長)では11月24日、

本島詰所においてマンス

リー隊(第14回)を実施し17名が参加。斯道会別席団参

受入準備として、駐車場の自線引き等を行いました。

統計(10月1日~31日)

教会名	初席	中席	妻子姫	修霊	教説書	検定講習
本島都	1	1				
本惠代	1	2				
本新田	1	1	1			1
赤峰		1				
南吉		1				
神峰		3				
マリーナ				1		
カリフォルニア		1				
シータック						1
合計	2	10	1	1	1	1

にをいがけ名簿提出教会(11月)

本島9	本千治10	本新田10
樺太11	本千恵8	本九台4
本田中7	本浜陽4	赤峰11
本倉岡11	本攝雅10	峰11
本樺11	本攝津11	南峰11
本室10	本攝泉10	神峰10
渋谷9	本太11	峰11
代々木8	本萩10	豪峰10
本萬代9	琴浦7	倉峰6
本都10	安藝本中6	大雄峰9
本京11	本備前11	峰9
本東11	本迪6	雄峰10
本草11	本府中10	森峰10
本三11	沖浦11	東峰10
本惠11	本亀8	峰11
本恵山8	本清水8	靈峰2
本恵明11	崇徳11	聖峰10
本静濱11	与島9	駿峰11
本静森9	本勇4	別峰9
本日米10	本高11	英峰10
本米11	本宣道10	峰8
本米里11	本九11	鶴峰10
本米浜11	本小倉8	都峰11
本千代11	本陽山11	仙峰11
本千賀10	本肥港8	ハリウッド4
計 75 教会 704 名		

おさづけ取次報告教会(11月)

本島11	本千治8	本肥港10
樺太11	本千恵9	本新田11
本田中7	本浜陽4	本九台5
本倉岡11	本攝雅10	赤峰11
本陸奥11	本攝津11	峰11
本樺11	本太10	神峰10
本室10	本室9	豪峰10
渋谷9	本谷9	倉峰10
代々木8	本萩9	榮峰6
本萬代10	琴浦10	大雄峰9
本都10	安藝本中10	福峰10
本京11	本備前11	星峰7
本東11	本迪11	峰11
本草11	本府中11	東峰7
本三11	沖浦11	峰11
本惠10	本亀10	實峰2
本恵山11	本清水11	聖峰10
本恵明11	崇徳11	駿峰11
本静濱11	与島11	別峰9
本静森9	本勇11	英峰10
本日米11	本高11	肥後八峰7
本米11	本宣道11	鶴峰10
本米里11	本九11	都峰10
本米浜11	本小倉11	仙峰11
本千代11	本陽山11	S.P.5
本千賀11	本肥港11	ハリウッド8
計 83 教会 2,173 回		

事情はこじび

(立教188年11月26日)

シータック教会

任命願

新任教會長

ながおてるあき
長尾 照明

臨時祭典願

就任奉告祭

立教188年12月14日

赤峰分教会

附属建物増築願

教會長

向所 隆文

以上

おさづけの理拝戴

(立教188年10月分)

本新田

窪田 教一

【計1名】

修養科第一〇一〇期修了

(立教188年10月27日修了)

マリーナ イワハシ・メイ

【計1名】

教人資格講習会修了

(立教188年10月11日付)

吉 峰 船木 幸美

【計1名】

教會長資格検定合格

(立教188年10月18日付)

シータック 長尾 照明

【計1名】

をびや許し

(立教188年10月分)

本九

雲庵 瑞穂

鶴峰

尾関 夕希子

【計2名】



大教會長動向

▼12月(予定)▲

3日、香川教区役職委員会議

6日、本静濱分教会

会長就任奉告祭

9日～16日、海外巡教

14日、シータック教会

会長就任奉告祭

22日、大教会月次祭執行

23日、河原町大教会・越乃國

大教会参拝

24日、修養科門出まなび

25日、かなめ会委員会

26日、本部月次祭参拝

27日、かなめ会

30日、神殿奉仕当番

以上

るくぢ会

(立教188年10月分)

▼本島△片山幹太・片山かおり・

香葉子・幹太郎・好次・昇太△片

山秀明△長尾真実・幸太

△大上ほの香・はる香・太吉

△本浜△片山清枝・正枝・誠

△藝本中分教会△池田こみち

△德力教会△高垣ひかり

▼本賀分

教会 ▼ポートランド△片山和信・

陽子・昇慶・竜次

ご芳志に厚くお礼申し上げます

すき間の おはなし

ご幼少の頃にあつたもの



長岳寺(天理市柳本町)は山辺の道の真ん中に位置し、境内には淨土式庭園の池があり、初夏はツツジ、晚秋は紅葉の美しいが特に見事で、多くの参拝者が訪れています。

この長岳寺の本尊『阿弥陀三尊像』は平安末期の仁平元年(1151)の作と判明していて、玉眼を用いた最古例の仏像として知られています。

この約100年前、天喜元年(1053)仏師定朝が制作した平等院鳳凰堂本尊の『阿弥陀如来像』が「仏の本様」とされ、以後「定朝様」と称されて長く仏師たちの規範となりました。その流れを受けて、奈良仏師たちがさらに写実性を求めて新たな表現の可能性を切り開こうとした技法の一つが、仏像に玉眼を嵌めることでした。

定朝の仏像の表情は、内省的で深い瞑想に入った静謐性が特徴なのに対し、奈良仏師の玉眼の仏像は、参拝者を見つめ、教え論し、救おうとする意志が伝わってくるようです。

この奈良仏師から後代、運慶や快慶といった日本最高峰の仏師集団『慶派』が生まれます。それらの源流に、長岳寺の『阿弥陀三尊像』はあると言えるのです。

さて、この本尊を奉る現本堂は天明3年(1783)の再建です。寛政10年(1798)、教祖がお生まれになったとき、この本堂は落成後16年目で、すでに存在していました。長岳寺から三昧田村まで約2・4キロ、歩いて35分の距離です。

教祖のご生家である前川家は藤堂藩で菩提寺は浄土宗、長岳寺は柳本藩で真言宗ですので、幼いみき様が長岳寺を訪れる可能性は皆無と言えましょう。けれども教祖がご幼少のころ、すでにその本堂は存在していた。そのことがとても懐かしく思われて、本堂の古い柱をつい撫でてみたくなります。(むかいじよ)



教祖百四十年祭

【教会本部】

立教 189 年 1 月 26 日 10:30 執行

— 1 月 26 日のうごき —

●朝づとめ：午前 7 時

●夕づとめ：午後 5 時 15 分

●神殿おたすけ

時間：14:30 受付

場所：神殿西お守所（西礼拝場南側）

●をびや許し・おまもり下附

時間：8:00～9:30

14:30～16:30

場所：第二御用場

●別席

1/26 別席・お誓いはありません

●手荷物一時預かり所

時間：8:00～16:00

場所：三島公会堂

※境内掛本所・インフォメーションセンターでの手荷物預かりは行いません。

教祖 140 年祭帰参報告書

【総務部】

●提出締切：12月22日・大教会

※直轄教会ごと取りまとめ、全教会ご提出ください。

※本島詰所に寄らず参拝される方も含め、全員の氏名を記入してください。

※1/24～27 詰所食券の変更取消期限：1月22日

※1/26 昼食（おにぎり弁当）の変更取消期限：1月10日

※本島詰所駐車場を利用する車両台数をご記入ください

※帰参報告書（所定用紙）は、本島ドットコムからダウンロードできます。

青年会マンスリー隊

【青年会本島分会】

●実施日：12月21日（日）本島大教会
1月18日（日）本島大教会

教祖 140 年祭教長ご招宴

【教長ご招宴担当】

●ご招宴日：

1月28日、29日、30日、2月1日

— 当日の流れについて —

◇ご招宴会場：天理大学杣之内体育館

◇当日の集合時間：午前 11 時、本島詰所写真の間

◇諸注意連絡後、バスに乗車し、真南棟臨時乗降場へ向かいます。

◇ご招宴時間：正午から午後 1 時半

◇帰りは真南棟臨時乗降場まで徒歩移動の後、迎えのバスに乗車します。

◇欠席する教長はお早めに担当（平井真治郎役員）までお知らせください。

特別展示『おやさま』

【教会本部】

教祖 140 年祭特別展示『おやさま』

教祖ゆかりの品、写真パネル展示など

●開催期日：12月6日（土）、7日（日）、13日（土）、14日（日）、20日（土）、21日（日）、25日（木）、26日（金）

立教 189 年：1月 24 日（土）、25 日（日）、26 日（月）、27 日（火）

●開催時間：午前 10 時～午後 3 時（12 月 26 日は午後 1 時より開催、1 月 26 日は午後 2 時 30 分から 4 時 30 分までの開催）

●開催場所：おやまとやかた南右第 2 棟

鼓笛隊教祖 140 年祭御供演奏

【本島団鼓笛隊】

本島団鼓笛隊

「教祖 140 年祭 OB/OG 合同御供演奏」

●日時：立教 189 年 1 月 25 日（日）
14 時 30 分

●場所：本部南参道（元の黒門前）

●対象：現役の隊員、指導員、鼓笛隊 OB&OG

●現役隊員の問合せ先：佐藤道子部長

●OB&OG の問合せ先：石神和則
(090-8030-4012)

会計部より

【会計部】

●立教 189 年お鏡料・御神酒料は
一教会 2,000 円以上です。本年
12 月 22 日まで、大教会会計部へ
お納め下さい。

鼓笛隊北海道 50 周年総会

【本島団鼓笛隊】

本島団鼓笛隊

「北海道地区創立 50 周年記念総会」

●開催日：立教 189 年 1 月 11 日（日）

●会場：本樺分教会

●派遣指導員：大西知、佐藤道子、鎌田康典、香川靖幸

学修・大学の部

【本部学生担当委員会】

学生生徒修養会・大学の部

●期間：令和 8 年 3 月 4 日（水）～
3 月 8 日（日）（4 泊 5 日）

●受講対象：①令和 7 年 12 月 25 日現在、大学・短期大学・大学院・専門学校・高等専門学校（4 年以上）に在学している者。②全期間を通して受講できる者

●申込期間：令和 7 年 12 月 25 日～
令和 8 年 2 月 15 日

●受講料：10,000 円（当日まで詰所に納めてください）

●詳細につきましては、雲庵春彦（090-2515-8039）、横関茂治（090-1138-1690）までお問い合わせください。

学修・高校卒業生コース

【本部学生担当委員会】

学生生徒修養会・高校卒業生コース

●期間：令和 8 年 3 月 10 日（火）～
3 月 12 日（木）（2 泊 3 日）

●受講対象：①令和 7 年度高等学校卒業予定者。②全期間を通して受講できる者

●申込期間：令和 7 年 12 月 25 日～
令和 8 年 2 月 15 日

●受講料：5,000 円

12 月ひのきしん派遣依頼

【総務部】

<大教会・食堂ひのきしん>

●期間：12 月 21 日～22 日

●派遣教会：渋谷

<詰所・食堂ひのきしん>

●期間：12 月 25 日～26 日

●派遣教会：安藝本中、本九

<https://www.honjima.com/>